

国際かんがい排水委員会 (ICID)
第25回総会及び
第74回国際執行理事会の対応方針について

農村振興局

令和5年10月17日

農林水産省

目 次

【審議事項】

ICID第25回総会及び第74回国際執行理事会(IEC)の対応方針(案).....	1
---	---

(参 考)

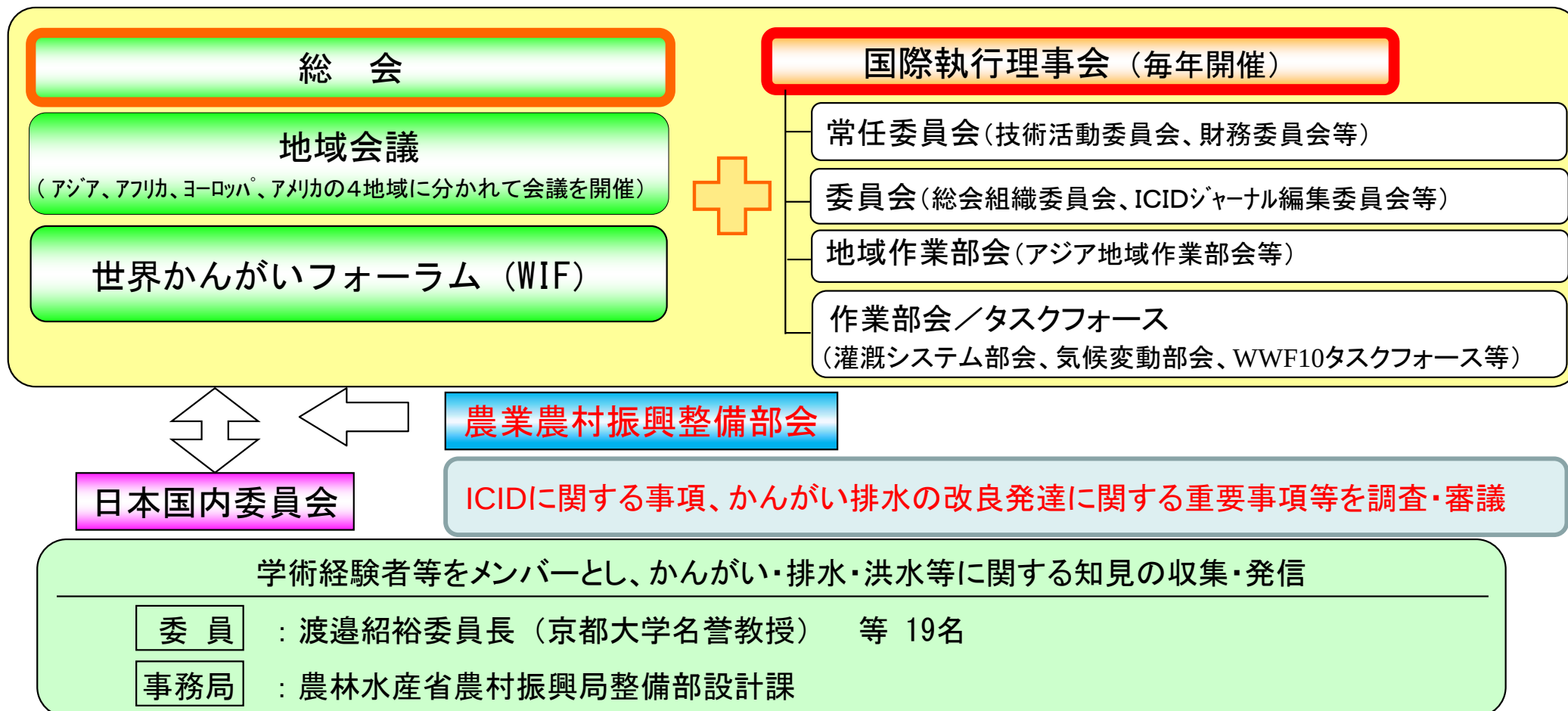
ICID日本国内委員会について.....	5
----------------------	---

【報告事項】

世界かんがい施設遺産について.....	7
---------------------	---

1. 全体概要

- 国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがい排水に係る科学的、技術的知見により、食料や繊維の供給を世界規模で強化することを目的として1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関(本部:インド(ニューデリー))。
- 毎年、国際執行理事会及び常任委員会や各種作業部会等が開催され、各国国内委員会委員が参加し、ICIDの政策・運営等に関する議論、技術・情報の交換等を行う。
- 通常は、国際執行理事会と合わせて、3年に一度、総会、地域会議、世界かんがいフォーラムをローテーションで開催。今年は総会と国際執行理事会を同時開催。



ICID第25回総会及び第74回国際執行理事会(IEC)の対応方針(案)

2. 第25回総会及び第74回国際執行理事会の概要

- 第25回総会及び第74回IECは、2023年11月1日～8日にインド・ヴィッシャーカパトナムで開催。
- 総会テーマは「農業における水不足への取り組み」。
- IECでは、3つの常任委員会、3つの委員会、4つの地域作業部会、21の作業部会/ タスクフォースで議論された事項について、各国内委員会の代表が審議し、決議。
- 各委員会や作業部会は、ICID日本国内委員会の委員が分担して対応。
- 今回のIECには、日本国内委員会から渡邊委員長ほか14名の委員及び事務局が参加予定。

3. 対応方針

- 近年、世界情勢の変化や気候変動に伴う食料安全保障への懸念が高まっており、安定的な食料確保に向けた効率的かつ持続可能なかんがいの実現が不可欠となっている。このため、水田かんがいが有する高い生産性、持続性及び多面的機能並びに気候変動対策に関する日本の知見を各国に提供していくことにより、限りある水資源の有効利用(かんがい効率の向上等)への貢献及び水田かんがいに対する国際的理解の醸成を目指す。
- これを踏まえ、日本国内委員が、所属する作業部会等において、上記に沿って議論を行うとともに、最新の研究等について情報発信及び収集を行う。
- 各国の国内委員会が参加するIECにおいて、ICIDの重要事項を決定する際には、我が国に不利益が生じないよう、情報収集を行い対処する。
- 本年度で任期満了を迎える会長及び副会長(3名)の後任を決める選挙が予定されており、日本国内委員会として、地域バランスやこれまでの活動実績等を考慮し、投票を行う。

4. 第25回総会での発表内容

- ・国内委員が論文を提出・発表する他、FAO及びJICAがサイドイベントを開催。

【国際ワークショップ論文提出・発表予定者】

- ・加藤亮委員(東京農工大学大学院農学研究院教授)

テーマ: 気候変動下における世界の食料安全保障のための非従来型スマート水利用

- ・越山直子委員(土木研究所寒地土木研究所主任研究員)

テーマ: 日本の水田地帯の排水系統における田んぼダムの可能性

- ・木村匡臣委員(近畿大学農学部准教授)

テーマ: 水温管理の観点における水田灌漑用ICT機器導入効果の評価

- ・長野委員(神戸大学大学院准教授)

テーマ: アジアデルタ地域における持続可能な農業のための機械学習とリモートセンシングに基づく水管理プラットフォーム

- ・鷺野室長(農林水産省設計課海外土地改良技術室)

テーマ: 日本の農業インフラの排水事業計画への気候変動予測の適用

【カントリーレポート発表予定者】

- ・木村匡臣委員(近畿大学農学部准教授)

テーマ: 近代的灌漑サービスのための道筋と技術

【サイドイベントの発表予定者】

- ・乃田啓吾委員(東京大学大学院)

テーマ: グリーンインフラとしての水田のエコシステムサービス

※参考

【2023年最優秀論文賞の受賞(予定)者】

- ・木村匡臣委員(近畿大学)ほか

テーマ: 高温障害警報システムとしての水稻水温予測ハイブリッドモデルの開発



ICID・CIID

ICID国際執行理事会 (IEC)

PCSO (組織委員会)

PCTA (技術委員会)

PFC (財務委員会)

MB (運営委員会)

CO (本部)

AFRWG
アフリカ地域部会

ASRWG
アジア地域部会

ERWG
ヨーロッパ地域部会

C-CONGR
総会組織委員会

ICID-YPF
若手灌漑技術者フォーラム

AMRWG
アメリカ地域部会

EB-JOUR
ジャーナル編集委員会

WG-HIST
歴史部会

WG-CDTE
能力開発研修教育部会

TF-WWF10
WWF10タスクフォース

WG-VE
VE部会

TF-MTD
多言語技術辞書タスクフォース

WG-ENV
環境部会

WG-SDTA
感潮地域の持続開発部会

WG-MWSCD
水不足対応部会

WG-CLIMATE
気候変動部会

WG-IDSST
社会・経済変革期における灌漑排水部会

WG-AFM
高度洪水管理部会

WG-WFE-N
水・食料・エネルギーネクサス部会

WG-IOA
制度・組織部会

WG-LDRG
農地排水部会

WG-M&R
灌漑施設の近代化と再活性化部会

WG-IDM
灌漑の発展と管理部会

WG-WATS
農業用水節水部会

WG-RWH
レインウォーターハーベスト部会

WG-NCWRI
新たな水資源の灌漑利用部会

WG-SONFARM
持続可能な末端灌漑システム開発部会

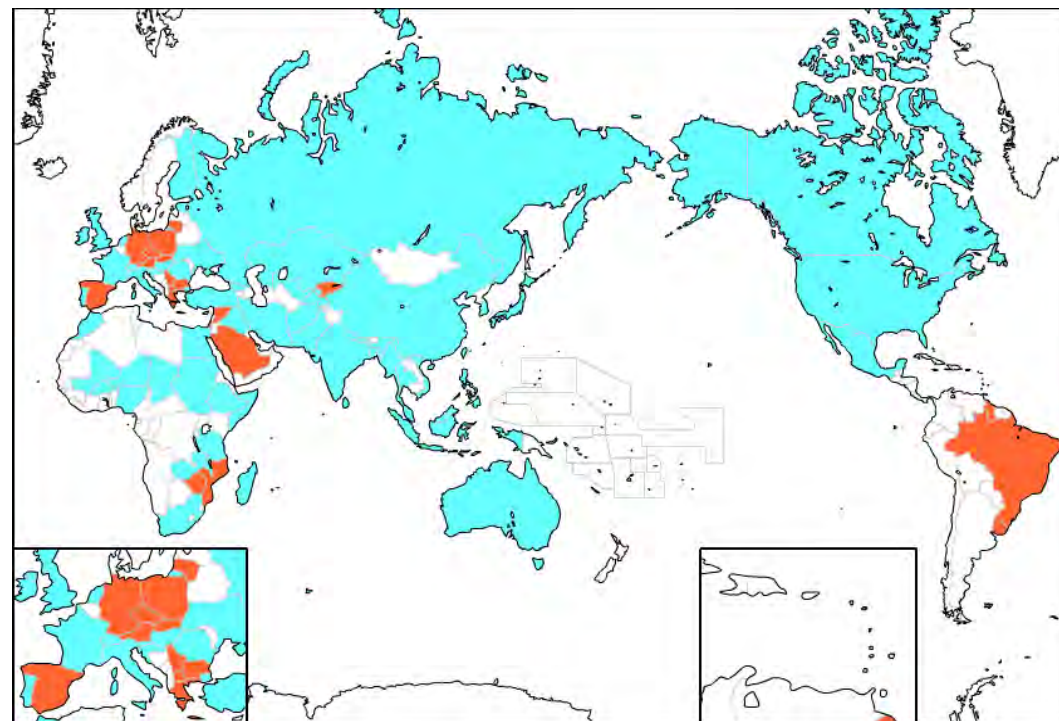
: ICID日本国内委員
が所属する部会等

○ 日本は ICID日本国内委員会を設置し、1951年にICIDに加盟。日本国内委員会の委員による作業部会等での活動を通じ、我が国と世界のかんがい排水技術の情報を収集・発信し、世界の食料安全保障の確保等に貢献。

【ICID日本国内委員会委員】

委員名	所 属	役 職
奥田 透	全国農村振興技術連盟	委員長
加藤 亮	東京農工大学大学院農学研究院	教授
木村 匡臣	近畿大学農学部環境管理学科	准教授
久野 叔彦	(株)三祐コンサルタンツ	顧問
越山 直子	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水利基盤チーム	主任研究員
雑賀 幸哉	サンスイコンサルタント(株)	取締役
清水 克之	鳥取大学農学部生命環境農学科	教授
杉浦 未希子	上智大学グローバル教育センター	教授
辻本 久美子	岡山大学大学院環境生命科学研究科	助教
長野 宇規	神戸大学大学院農学研究科	准教授
乃田 啓吾	東京大学大学院農学生命科学研究科	准教授
福田 信二	東京農工大学大学院農学研究院	教授
松野 裕	近畿大学農学部環境管理学科	教授
皆川 裕樹	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域	上級研究員
宮津 進	新潟大学農学部	助教
向井 章恵	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域	上級研究員
森 卓	NTCインターナショナル株式会社	代表取締役 社長
吉川 夏樹	新潟大学農学部	教授
渡邊 紹裕 【委員長】	京都大学	名誉教授

【ICID加盟国・地域の分布】



:加盟国 58ヶ国・地域
 :準加盟国 20ヶ国

ICID加盟国・地域数の合計 : 78

うち、アジア・オセアニア地域 28ヶ国・地域

アフリカ地域 17ヶ国

アメリカ地域 6ヶ国

ヨーロッパ地域 27ヶ国

赤字: 本年新たに就任いただいた委員。黄色網掛け: 今回参加する委員。

- ・本年度で任期満了を迎える会長の後任を決める選挙に対して、候補者は2名。
- ・本年度で任期満了を迎える副会長(3名)の後任を決める選挙に対して、候補者は3名のみであるため投票は3名の候補者の序列を決めるために行われる。

現会長(任期2020～2023)

	氏名	国名
1	Prof. Dr. Ragab Ragab	イギリス

会長選立候補者(任期2023～2026)

氏名	国名
Dr. Ir. Mochammad Amron	インドネシア
Dr. Marco Arcieri	イタリア

現副会長

	氏名	国名	任期
1	Prof. Choi, Jin-Yong	韓国	2020-2023
2	Dato' Ir. Nor Hisham bin Mohd Ghazali	マレーシア	2020-2023
3	Eng. Rafat Nael Al- Intaki	イラク	2020-2023
4	Dr. Tsugihiko Watanabe	日本	2021-2024
5	Mr. Aziz Fertahi	モロッコ	2021-2024
6	Mr. Ali Reza Salamat	イラン	2021-2024
7	Mr. Bruno Grawitz	フランス	2022-2025
8	Prof. Sylvester Mpandeli	南アフリカ	2022-2025
9	Mr. Kushvinder Vohra	インド	2022-2025

副会長選立候補者(任期2023～2026)

氏名	国名
Dr. Tian Fuqiang	中国
Dr. Watchara Suiadee	タイ
Dr. Vadim Sokolov	ウズベキスタン

継続

改選前の地域別副会長数

○アジア・オセアニア地域	6
○アフリカ地域	2
○ヨーロッパ地域	1

- ICIDは、歴史的かんがい施設を認定・登録する「世界かんがい施設遺産」制度を2014年より開始。2014～2022年にかけて日本の47施設を含め世界の142施設が世界かんがい施設遺産に登録。
- 2023年分の登録に向けて、ICID日本国内委員会は、施設管理者等から応募のあった4施設をICID本部に申請（6月）。ICID本部の審査委員会による審査を経て、11月のIECにおいて登録施設が発表され、受賞者に対し、認定証の授与が行われる。

対象施設・登録基準

【対象施設】

- 建設から100年以上
- 次のいずれかの施設
- ①ダム（かんがいが主目的）
- ②ため池③堰、分水施設
- ④水路 ⑤水車⑥排水施設等

【登録基準】

- かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの
- 構想、設計、施工、規模等が当時としては先進的、卓越した技術であったもの
- 長期にわたり、特筆すべき運営・管理を行ってきたもの 等

【2023年にICID日本国内委員会からICID本部に申請した候補施設】





資料に掲載した地図は、必ずしも、
の領土を包括的に示すものではありません。

国名	登録数
日本	47
中国	30
インド	14
スリランカ	12
イラン	8
韓国	8
イタリア	4
イラク	4
豪州	3
エジプト	2
メキシコ	2
タイ	2
アメリカ	2
マレーシア	1
モロッコ	1
パキスタン	1
ロシア	1
合計	142